

シリーズ
元気です！

一石三鳥の取り組み

「ふれあいウイズ」

商店街活性化は
ふれあいから

さわやかな秋空が広がる朝、若桜街道を歩いていると、にぎやかな声が聞こえてきた。若桜橋付近の一角に人だかりができていた。近くに行ってみると、野菜などの生鮮食品



代表の渡辺さん

や加工品を買い求める人たちが店内はあふれ、レジには行列ができています。この店の名前は、「ふれあいウイズ」。市内はもとより県東部周辺の生産者グループが作った野菜、加工食品、木工製品などを販売している。「生産者と消費者のふれあいを大切にしていきます。この店がコミュニティの拠点となり、商店街の活性化につながればと思っていま

す」と代表の渡辺博さん（戒町・五十五歳）わたなべひろし。

この日も、農家の人がお客さんに自分たちが作った農産物を自信たっぷりに説明したり、おいしく食べる料理方法を教えていた。

きっかけ

平成九年七月、渡辺さんら若桜街道商店街の有志が、本



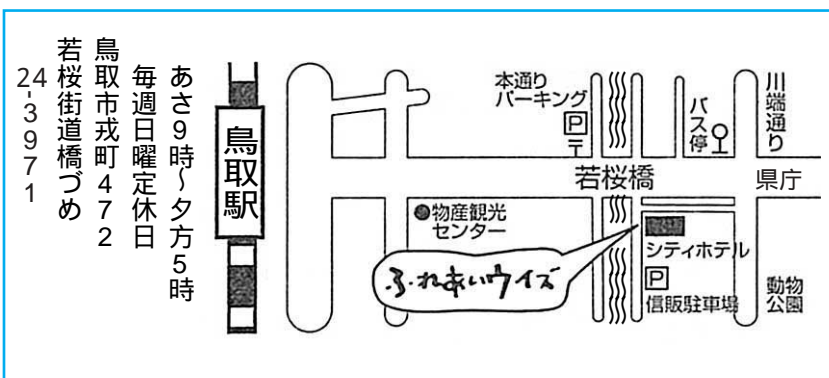
業を営むかたわら商店街の活性化に「役買おうと、空き店舗を活用して開店したのが始まりだ。「商店街の活力が衰えていくのを感じていました。そこで、どうしたら人が集まるのか考えたのです。ちょうど、私たちも地元の良い物をどんどん広めていきたいなど思っていて、地元で取れる低農薬の新鮮で安全な農産物に着目しました」と渡辺さんは当時を振り返る。

「ふれあい」から「信頼」へ

「ふれあいウイズ」では、生産者と消費者との間に、信頼関係が生まれている。生産者は消費者と直接ふれあい語り合うことで、作ることへの喜びが生まれる。消費者も作った人の顔が見えるため、安

心して商品を購入できる。生産者と消費者の関係がふれあいから信頼に変わってきた。口コミでどんどん人が集まってくる。商店街にも活気が沸いてくる。一石三鳥のすばらしい取り組みだ。

「消費者と生産者を結ぶ橋渡し役としてがんばっていきたい。そして商店街を活性化したい」。渡辺さんの瞳の奥にまつすくな熱い想いを感じた。



あさ9時〜夕方5時
毎週日曜定休日
鳥取市戎町472
若桜街道橋つめ
243971